

編集後記

“No-Dig Today” ご愛読の皆様、新年明けましておめでとうございます。今年も、本誌は皆様方に最新かつ有益な非開削技術関連情報をお送りいたします。

私たちの日々の快適な生活は、道路下に埋設された多くの地下パイプラインによるインフラで支えられています。今後、永き将来にわたり、これらの機能を如何に保持し、更新、向上させるか。ここにこそ、本誌の主旨である“Why dig trenches When there are better solutions?” 「何故掘るの？ もっと良いやり方があるのに！」があるのです。

今回は新年ということもあり、テーマは「契約」です。何と堅い題材か？ 新年、非開削と何の関わりがあるのか？ まあ、お付き合い下さい。

さて、皆様は、新年の初詣には行かれたでしょうか。今年こそ不景気からの脱却を目指してか、全国各地の有名な神社仏閣には、例年を超える多くの善男善女が詣でたことでした。この初詣の際、私たちは普通何と言って祈るのでしょうか。「今年が良い年でありますように」「志望の〇〇大学に合格できますよ

うに」「家内安全、商売繁盛」などなど。よく考えてみれば、神様にお願いする一方のスタイルです。何っ、その代わりに、たんまりと賽銭を奮発した、と。でも、その程度のお金で願った幸福が手に入るのなら、正に願ったりです。とにかく、私たち日本人は、天なる神にひたすらお願いする国民性のようです。

片や、欧米、諸外国では如何か。勿論、人の心や宗教界のことは、想像するしかありませんが、外国映画などでかわいい子供が寝る前、ベッドサイドで跪き、両手を合わせて天の神に祈るシーン、「私は…しますので、どうか神様…お願いします。」と口ずさんでいます。ここに私と神様との間に「契約」があるようです。Aはこうする、ならばBはこうして下さい。正に、契約です。キリスト教の聖典に旧約聖書と新約聖書とがありますが、ここでの「約」とは、神との契約とのことです。ですから、キリスト教での生活習慣に親しんだ欧米人には、神との契約は基より、日常の生活やビジネスにおいても「契約」の理念が自然と染みついていると言えます。

日本でも、日々の生活やビジネスの場で、多くの契約を結んでいます。

正に、契約の世界となっていることは事実です。でも、契約に対する思い入れ、執念が日本と欧米ではかなり本質的な部分で異なるように感じます。

日本での契約書には、多くの場合、その末項に「本書の記載事項に疑義が生じた場合あるいは本書に記載されていない事象が生じた場合、双方誠意をもって協議し、その解決に努力すること」と記されています。ここでの誠意とは、相手側に対するもの、日本流礼儀の現れです。日本では、契約書の取り交わしは儀式、手続きの一つとされているのかもしれない。一方、海外では、契約書の記載内容こそ、互いの権利主張の根拠、相手側の義務の確認でしかありません。ここに契約習慣のズレがあり、引いては大きなトラブルの根因ともなるようです。

新年に当たり、今年こそ、我が国の優れた非開削技術をもって、海外市場への進出を目指す我が同胞企業の皆様には、是非、契約に関する理念を再認識頂くことが肝要と思われる。

〈編集委員長 石川和秀〉

No-Dig Today

No.74 2011 Jan. 平成23年1月1日発行

編集：「No-Dig Today」編集委員会
編集企画小委員会

発行所：JSTT 一般社団法人日本非開削技術協会
〒135-0047 東京都江東区富岡2-11-18
西村ビル3F

TEL.03(5639)9970 FAX.03(5639)9975

発行人：松井大悟

印刷所：株式会社 LSプランニング

● ご案内 ●

◇本誌のご購読について

ご購読をご希望の方は、巻末の振込み用紙で当協会まで直接お申し込み下さい。

○購読料(税込み)

1冊 1,575円(本体1,500円)〒400円
1ヵ年(4冊)6,300円(本体6,000円)〒1,600円

◇発行

年4冊：1・4・7・10月1日発行

◇広告のお申し込みについて

本誌に広告の掲載をご希望の方は、編集室までご連絡下さい。媒体資料等お送り致します。

◇投稿

・技術論文

非開削に関連する技術、製品についての論文を募集しています。

投稿論文は、委員会で選考の上掲載論文には薄謝をお送り致します。

◇情報のご提供について

・No-Dig NEWS ダイジェスト

非開削技術に関連する新技術、新製品、図書の紹介、関連団体の動向や講演会、セミナー・展示会の案内など、情報をお寄せ下さい。